



2022年3月期 第2四半期 連結決算概況と通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 武田 睦史 | 2021年11月5日

(スライド1)

- CFOの武田でございます。
- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2022年3月期 第2四半期 決算説明会」にご参加いただき誠に有難うございます。
- まず、私から2022年3月期 第2四半期の連結決算概況、および通期業績見通しについて、ご説明申し上げます。

免責事項

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

ハイライト

第2四半期及び累計実績

- ✓ 売上高： 医療分野が牽引し、連結で+31%と大幅な成長
FY2020比でも2桁成長となり、パンデミック前を大きく上回る水準
- ✓ 営業利益： 売上回復を主要因に、2Q及び累計において、額・率ともに過去最高*
2Qの営業利益率は22%と、経営戦略のKPI達成に向けて順調な進捗

通期業績見通し

- ✓ 売上高： パンデミック前を超える水準、医療分野は過去最高となる見込み
- ✓ 営業利益： 科学事業の分社化に向けた費用等を織り込むも、額は1,440億円、率は約17%と、ともに過去最高を見込む
- ✓ 当期利益**： 過去最高の1,090億円となる見通し

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から

**親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS

(スライド3)

- スライド3ページをご覧ください。
- 2022年3月期 第2四半期決算における主なポイントです。
- まずは売上高です。
- 医療分野が牽引し、+31%と大幅な成長となりました。
- 2020年3月期と比較しても、12%の2桁成長となり、パンデミック前を大きく上回る水準を確保しました。
- 売上増に加え、販管費の適正化を継続し、営業利益率は18.5%となりました。第2四半期及び累計において、額・率ともに過去最高です。
- また、第2四半期だけを見ますと、営業利益率は22%と、経営戦略で掲げたKPI達成に向けて順調な進捗となりました。
- 続いて通期業績見通しです。
- 累計の実績や市場環境の回復などを踏まえ見直しを行い、売上を上方修正しました。
- 科学事業の分社化に向けた費用等を織り込むも、営業利益は額・率ともに引き続き過去最高となる見込みです。
- 2021年3月期比で売上高は17%の成長、営業利益率は5.6ポイント改善の16.8%となる見通しです。

01

2022年3月期 第2四半期 連結業績および事業概況

(スライド4)

- それでは、2022年3月期 第2四半期の連結業績および事業概況について、ご説明申し上げます。

2022年3月期 第2四半期実績 ①連結業績概況

- 1 売上高： 市場回復を受けて、医療分野が牽引し、連結で+31%の成長。FY2020（パンデミック前）と比較しても大幅な成長
- 2 営業利益： 2Q及び累計において、額・率ともに過去最高*。2Qの営業利益率は22%と、経営戦略のKPI達成に向けて順調な進捗

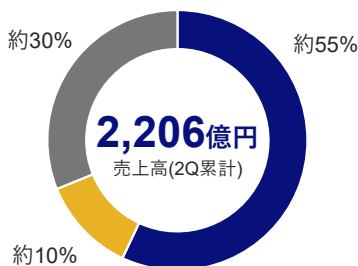
(単位：億円)	2Q累計実績（4-9月）								2Q実績（7-9月）							
	FY2020	FY2021	FY2022	FY2021比	為替除き FY2021比	FY2020比	為替除き FY2020比	FY2020	FY2021	FY2022	FY2021比	為替除き FY2021比	FY2020比	為替除き FY2020比		
売上高	3,684	3,165	1 4,131	+31%	+24%	+12%	+8%	1,966	1,799	1 2,215	+23%	+18%	+13%	+8%		
売上総利益 (売上総利益率)	2,428 (65.9%)	1,960 (61.9%)	2,703 (65.4%)	+38%	+32%	+11%	+9%	1,303 (66.3%)	1,107 (61.6%)	1,469 (66.3%)	+33%	+27%	+13%	+9%		
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	1,850 (50.2%)	1,615 (51.0%)	1,915 (46.4%)	+19%	+14%	+4%	+1%	894 (45.5%)	811 (45.1%)	957 (43.2%)	+18%	+14%	+7%	+3%		
その他の収益および費用 等	▲20	▲42	▲25	-	-	-	-	▲16	▲30	▲26	-	-	-	-		
営業利益 (営業利益率)	558 (15.2%)	303 (9.6%)	2 763 (18.5%)	+152%	+138%	+37%	+36%	393 (20.0%)	266 (14.8%)	2 486 (22.0%)	+83%	+69%	+24%	+21%		
税引前利益 (税引前利益率)	535 (14.5%)	283 (9.0%)	738 (17.9%)	+161%				380 (19.3%)	256 (14.3%)	469 (21.2%)	+83%					
当期利益** (当期利益率)	361 (-)	▲227 (-)	624 (15.1%)	+851億円				274 (14.0%)	▲200 (-)	437 (19.7%)	+637億円					
EPS	27円	▲18円	49円					-	-	-						
円/USドル	109円	107円	110円					107円	106円	110円						
円/Euro	121円	121円	131円					119円	124円	130円						
円/CNY	16円	15円	17円					15円	15円	17円						

*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から **親会社の所有者に帰属する当期利益

(スライド5)

- スライド5ページをご覧ください。
- 連結売上高は、4,131億円です。
- 市場の回復を受け、医療分野を中心とした全事業で売上が増加し、+31%の成長となりました。
- 2020年3月期と比較しても+12%となり、パンデミック前を上回る水準となりました。
- 売上総利益は2,703億円、売上総利益率は3.5ポイントの改善です。増収を主な要因として、工場の操業度が改善したこと、前年同期に計上した内視鏡製品の自主回収費用がなくなったことも寄与しています。
- 販管費は、1,915億円、販管費比率は4.6ポイントの改善です。販売活動の制限緩和や運営基盤強化及び収益性改善に向けた施策もあり、額としては増加しましたが、売上増も大きく寄与し、率としては46.4%に抑えています。
- 営業利益は763億円、営業利益率は8.9ポイント改善し18.5%でした。
- 四半期報告書の開示を2009年3月期から行っていますが、第2四半期及び累計において額・率ともに過去最高となりました。
- また、第2四半期だけを見ますと、営業利益率は22.0%と、経営戦略で掲げたKPI達成に向けて順調な進捗となりました。
- 当期利益は、624億円と、前年同期比で851億円増加しました。前期は映像事業の譲渡に伴う損失もあり、今期は大幅な改善となりました。

2022年3月期 第2四半期実績 ②内視鏡事業



*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

内視鏡事業全体

単位: 億円	FY2021			FY2022			FY2022		
	1Q	2Q	2Q累計	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	2Q累計
売上高	743	970	1,713	1,054	1,170	3,937	1,000	1,206	2,206
営業利益	124	299	423	316	249	988	227	390	616
その他の損益*	▲4	▲2	▲5	▲8	▲46	▲59	▲22	▲10	▲31
営業利益率 (為替影響調整後)	16.7%	30.8%	24.7%	30.0%	21.2%	25.1%	22.7% (23.7%)	32.3% (31.9%)	27.9% (28.2%)

**決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値 / **FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。FY2021の実績も同様の組替えを行っています。

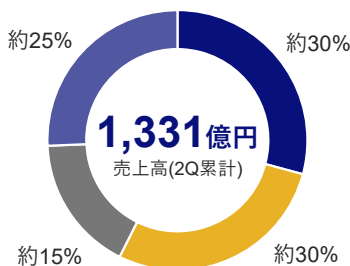
FY2022 vs FY2021 2Q (7-9月) 成長率

	円ベース	為替影響調整後	
■ 消化器内視鏡	30%	23%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響からの回復により、全ての地域でプラス成長。特に北米、欧州、中国の売上が増加。新製品である「EVIS X1」シリーズの販売が堅調に推移していることに加え、一世代前の上部消化管用スコープや下部消化管スコープ等も増収に寄与
■ 外科内視鏡	22%	17%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響からの回復により、全ての地域でプラス成長。特に外科内視鏡システム「VISERA ELITE II」が好調に推移した日本と北米で売上が増加
■ 医療サービス	16%	10%	<ul style="list-style-type: none"> 保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上、新規契約の増加に加え、新型コロナウイルスの影響からの回復により、修理件数の回復が見られており、全ての地域でプラス成長
合計	24%	18%	(参考値：社内管理ベース) FY2020比 +8%成長

(スライド6)

- スライド6ページをご覧ください。
- 各セグメントの概況について、ご説明いたします。
- まず内視鏡事業です。売上高は2,206億円、29%のプラス成長でした。
- 営業利益は616億円、営業利益率は27.9%でした。
- 活動の制限緩和による費用の増加や、その他の費用で欧州の持分法適用会社への持分法投資に関する減損損失16億円等がありました。売上成長、特に消化器内視鏡の売上割合増加が貢献し、大幅な増益となりました。
- 事業概況ですが、第2四半期（7-9月）の状況を中心にお話します。
- 新型コロナウイルスの影響が続いた前年同期と比較して、今期は市場環境が回復しており、全てのサブセグメントで売上成長を実現しています。社内管理の参考数値となりますが、2020年3月期と比較しても8%のプラス成長と、パンデミック前を上回る水準となりました。
- 消化器内視鏡では、全ての地域でプラス成長となり、特に北米、欧州、中国の売上が顕著に増加しました。
- 製品別では、新製品である「EVIS X1」シリーズの販売が堅調に推移していることに加えて、一世代前の上部消化管スコープや下部消化管スコープ等も、増収に寄与しました。
- なお、「EVIS X1」シリーズの売上割合は徐々に上昇してきており、消化器内視鏡のサブセグメントの中で10%程度となっております。
- 外科内視鏡は、外科手術用内視鏡システム「VISERA ELITE II」の販売が好調に推移しました。日本に加え、北米においても「VISERA ELITE II」への切り替えが進み、売上が増加しました。
- 医療サービスは、保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上、新規契約の増加に加え、新型コロナウイルスの影響からの回復により、修理件数の回復が見られており、全ての地域でプラス成長を実現しました。

2022年3月期 第2四半期実績 ③治療機器事業



*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります
FY2022 vs FY2021 2Q (7-9月)
 成長率

治療機器事業全体									
	FY2021			FY2022					
単位: 億円	1Q	2Q	2Q累計	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	2Q累計
売上高	430	587	1,016	623	679	2,318	636	695	1,331
営業利益	37	63	99	132	74	306	141	162	303
その他の損益*	▲3	▲1	▲4	▲3	▲22	▲30	25	▲4	21
営業利益率 (為替影響調整後)	8.5%	10.7%	9.8%	21.3%	10.9%	13.2%	22.1% (23.1%)	23.3% (23.0%)	22.7% (23.0%)

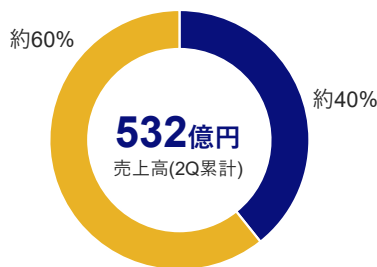
**決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値/ FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。FY2021の実績も同様の組替えを行っています。

	円ベース	為替影響調整後	
■ 消化器科 (処置具)	13%	9%	■ 症例数が回復傾向にあり、全ての地域でプラス成長。欧州、中国で好調に推移。特にERCP、サンプリング (生検鉗子等)、ESD・EMR用の製品群の売上が拡大
■ 泌尿器科	18%	13%	■ 症例数が回復傾向にあり、BPH用の切除用電極と尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の拡販が奏功した北米が特に好調に推移
■ 呼吸器科	36%	29%	■ 新型コロナウイルスの影響からの回復に加え、Veran Medical Technologies社の売上、EBUS-TBNA(超音波気管支鏡ガイド下針生検)で主に使われる処置具や気管支鏡 (超音波気管支鏡の新製品を含む) 等が好調に推移した北米で大幅な成長
■ その他の治療領域	15%	9%	■ 耳鼻科、婦人科で好調に推移。特に耳鼻咽喉科向け内視鏡の売上が寄与
合計	18%	13%	(参考値: 社内管理ベース) FY2020比 +5%成長

(スライド7)

- スライド7ページをご覧ください。
- 治療機器事業です。売上高は1,331億円、31%のプラス成長でした。
- 営業利益は303億円、営業利益率は22.7%でした。
- 活動の制限緩和等により費用は増加したものの、売上成長と前年同期に計上した気管支鏡製品の自主回収費用59億円が減少し原価率が大幅に改善されたことに加え、その他の収益でMedi-Tate社の段階取得に係る差益28億円もあり、大幅な増益、また営業利益率は大きく改善しました。
- 事業概況ですが、第2四半期 (7-9月) の状況を中心にお話します。新型コロナウイルスの影響からの回復により、全てのサブセグメントで売上成長を実現しました。社内管理の参考数値では、2020年3月期と比較しても5%のプラス成長と、パンデミック前を上回る水準となりました。
- 消化器科処置具では、症例数が回復しており、全ての地域でプラス成長となりました。特に、欧州と中国で好調に推移しました。スクリーニング検査における組織採取に用いられる生検鉗子等のサンプリングや、膵管や胆管などの内視鏡診断・治療に使用するERCP (Endoscopic Retrograde Cholangio Pancreatography/内視鏡的逆行性胆道膵管造影術) 用の製品群、病変の切除に使用されるESD(Endoscopic Submucosal Dissection/内視鏡的粘膜下層剥離術)・EMR(Endoscopic Mucosal Resection/ 内視鏡的粘膜切除術)用の製品群が売上に拡大しました。
- 泌尿器科においても、症例数が回復傾向にあり、BPH (Benign Prostatic Hyperplasia/前立腺肥大症) 用の切除用電極と尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の拡販が奏功した北米で特に好調に推移しました。
- 呼吸器科では、新型コロナウイルスの影響からの回復、Veran Medical Technologies社の売上も加わったほか、EBUS-TBNA(Endobronchial ultrasound-guided Transbronchial Needle Aspiration/ 超音波気管支鏡ガイド下針生検)で主に使われる処置具や気管支鏡等が好調に推移した北米で大幅な成長となりました。
- その他の治療領域では、婦人科、耳鼻科が好調に推移しました。特に、耳鼻咽喉科向け内視鏡の売上が寄与しています。

2022年3月期 第2四半期実績 ④科学事業



*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

科学事業全体

単位: 億円	FY2021					FY2022				
	1Q	2Q	2Q累計	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	2Q累計	
売上高	178	226	403	266	289	959	248	283	532	
営業利益	▲16	18	2	27	20	49	19	46	65	
その他の損益*	▲3	3	0	0	▲13	▲12	▲2	▲1	▲3	
営業利益率 (為替影響調整後)	-	8.1%	0.6%	10.3%	6.9%	5.2%	7.5% (8.1%)	16.3% (15.4%)	12.2% (12.0%)	

**決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

FY2022 vs FY2021 2Q (7-9月) 成長率

	円ベース	為替影響調整後	
■ ライフサイエンス	18%	13%	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響からの回復に加え、研究所、大学での予算執行が堅調に進み、プラス成長。特に補正予算の執行や大型受注等があった日本が好調に推移
■ 産業	32%	26%	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な市況回復に伴い、設備投資状況に改善が見られ、全ての分野でプラス成長。特に中国で、5G関連の電子部品や半導体市場が活況であることから工業用顕微鏡が好調に推移。市場環境に回復傾向が見られる非破壊検査機器も売上増加に寄与。好況な金市場と貴金属等のリサイクル市場が追い風となり、蛍光X線分析計の売上も好調に推移
合計	26%	20%	(参考値：社内管理ベース) FY2020比 ▲2%成長

(スライド8)

- スライド8ページをご覧ください。
- 続いて科学事業です。売上高は532億円、32%のプラス成長でした。
- 営業利益は65億円、営業利益率は12.2%でした。
- 売上の回復を主要因として、工場の操業度の改善と費用の統制により、大幅な増益となりました。
- 事業概況ですが、第2四半期（7-9月）の状況を中心にお話します。
- 新型コロナウイルスの影響からの回復を主要因に、全ての分野でプラス成長となりました。
- 社内管理の参考数値では、2020年3月期と比較して、2%の減収となりました。
- 今期は航空産業等で使われる工業用内視鏡や非破壊検査機器の需要が緩やかな回復にとどまっていることもあり、パンデミック前を下回る水準となりました。
- ライフサイエンス分野では、新型コロナウイルスの影響からの回復に加え、研究所、大学での予算執行が堅調に進んだことにより、プラス成長を実現しました。特に、補正予算の執行、大型受注等により、日本が好調に推移しました。
- 産業分野では、全体的な市況回復に伴い、設備投資状況に改善が見られ、全ての分野でプラス成長を実現しました。
- 中国で、5G関連の電子部品や半導体市場が活況であることから工業用顕微鏡が好調に推移したことに加え、市場環境に回復が見られる非破壊検査機器も売上増加に寄与しました。好況な金市場と貴金属等のリサイクル市場が追い風となり、蛍光X線分析計も好調に推移しています。

財政状態計算書

Medi-Tate社の買収等により、のれんと無形資産等が増加

2021年6月に約7,200万株の自己株式の消却を実施

(単位：億円)	2021年3月末*	2021年9月末	増減額		2021年3月末*	2021年9月末	増減額
流動資産	5,801	5,523	▲278	流動負債	3,284	2,882	▲402
棚卸資産	1,589	1,660	+72	社債及び借入金	315	212	▲103
非流動資産	6,033	6,330	+297	非流動負債	4,595	4,498	▲96
有形固定資産	2,392	2,371	▲21	社債及び借入金	3,237	3,141	▲96
無形資産・その他	2,367	2,454	+87	資本	3,955	4,472	+518
のれん	1,274	1,505	+231	自己資本比率	33.3%	37.6%	+4.3pt
資産 合計	11,833	11,853	+20	負債及び資本合計	11,833	11,853	+20

有利子負債：3,354（2021年3月末比▲199）

*2021年3月期に発生したVeran Medical Technologies社、Quest Photonic Devices社の企業結合について、第1四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間において暫定的な金額の修正を行っています。これに伴い、2021年3月期の数値を遡及して修正しています。

(スライド9)

- スライド9ページをご覧ください。
- 2021年9月末の財政状態です。
- 6月末の財政状態から、大きな変動要因はございません。
- Medi-Tate社の買収を実施したこと等により、のれんと無形資産等が前期末より増加しています。
- 有利子負債の減少により、自己資本比率は前期末比で4.3ポイント増加し、37.6%となりました。
- また、6月に約7,200万株の自己株式の消却を行っています。

連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF： 184億円のプラス。Medi-Tate社の買収による213億円の支出、社外転進支援制度の引当金取り崩しに伴う100億円の一時要因を考慮すると、497億円のプラス
- ☑ 財務CF： 借入金の返済や配当金支払により、441億円のマイナス

第2四半期実績（4-9月）

(単位：億円)	2021年3月期	2022年3月期	増減
税引前利益	283	738	+455
営業キャッシュフロー	374	688	+314
投資キャッシュフロー	▲702	▲505	+198
フリーキャッシュフロー	▲328	184	+511
財務キャッシュフロー	812	▲441	▲1,253
現金及び現金同等物期末残高	2,105	1,934	▲171

2022年3月期第2四半期（4-9月）の主な一時要因

営業CF：社外転進支援制度の引当金取崩	100億円
投資CF：事業・子会社等の取得	213億円

（スライド10）

- スライド10ページをご覧ください。
- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、688億円、前年同期比プラス84%となりました。業績回復に伴う利益水準の改善による大幅な増加があった一方、社外転進支援制度の引当金の取り崩しに伴う支出100億円等がありました。
- 投資キャッシュフローは、前年同期から198億円増加となりました。前期、定期預金400億円の預入を含んでいましたが、今期はMedi-Tate社の買収による213億円の支出等があり、実質は202億円の減少となりました。
- フリーキャッシュフローは、184億円のプラスです。一時要因である社外転進支援制度の引当金の取り崩しに伴う支出、Medi-Tate社の買収による支出も考慮すると、497億円のプラスとなりました。
- 財務キャッシュフローは、1,253億円減少、441億円のマイナスとなりました。前期は新型コロナウイルス対応として追加の資金調達をしましたが、今期の同様の調達はありません。借入金の返済や配当金の支払などでマイナスとなりました。
- 結果、9月末の現金及び現金同等物残は171億円減の1,934億円となりました。

02 2022年3月期 通期業績見通し

(スライド11)

- 次に、2022年3月期の通期業績見通しについてご説明申し上げます。

通期業績見通し ①連結業績

- 1 売上高： 2Q累計実績を踏まえ、かつ市場環境の回復を見込み、上方修正。パンデミック前のFY2020を超える水準
- 2 営業利益： 科学事業の分社化に向けた費用等を織り込むも、額は1,440億円、率は約17%と、過去最高を見込む
- 3 当期利益*： 過去最高の1,090億円となる見通し

(単位：億円)	2022年3月期 8月5日公表見通し	2022年3月期 最新見通し	増減	前回 見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	FY2021比	FY2020比	2021年3月期 通期実績**	2020年3月期 通期実績**	
売上高	8,300	1	8,560	+260	+3%	+2%	+17%	+13%	7,305	7,552
売上総利益 (売上総利益率)	5,460 (65.8%)	5,610 (65.5%)	+150	+3%	+2%	+22%	+16%	4,595 (62.9%)	4,828 (63.9%)	
販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,010 (48.3%)	4,000 (46.7%)	▲10	0%	▲1%	+12%	+5%	3,570 (48.9%)	3,812 (50.5%)	
その他の収益および費用等	▲50	▲170	-	-	-	-	-	▲205	▲94	
営業利益 (営業利益率)	1,400 (16.9%)	2	1,440 (16.8%)	+40	+3%	0%	+76%	+56%	820 (11.2%)	922 (12.2%)
税引前利益 (税引前利益率)	1,350 (16.3%)	1,390 (16.2%)						768 (10.5%)	866 (11.5%)	
親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	1,010 (12.2%)	3	1,090 (12.7%)					657 (9.0%)	606 (8.0%)	
EPS	79円	85円						10円	39円	

*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS
**「売上高」から「税引前利益」まで、継続事業の金額を表示しています。なお、当期利益は「継続事業からの当期利益」を表示しています。

2022年3月期配当
年間配当14円を予定

(スライド12)

- スライド12ページをご覧ください。
- 累計の実績を踏まえ、かつ市場環境の回復を見込み、8月に発表した2022年3月期の通期業績見通しに対して、売上高を260億円、営業利益を40億円上方修正しました。
- 売上高は8,560億円、前年比で17%の成長となる見込みです。
- 科学事業の分社化に向けた費用等を新たに織り込みましたが、費用の統制を継続し、販管費の効率化を図ることにより、営業利益は1,440億円、営業利益率は16.8%となる見通しです。
- また当期利益も1,090億円と、過去最高となる見通しです。
- パンデミック前の2020年3月期との比較では、売上高は13%成長、営業利益は56%の増益、営業利益率も4.6ポイントの改善を見込んでおります。
- 2022年3月期末の配当は、5月に公表した配当予想を据え置き、14円を予定しております。
- 業績見通しの前提となる想定為替レートは、1ドル110円、1ユーロ130円としております。

通期業績見通し ②セグメント別業績

- 1** 内視鏡・治療機器： 売上、営業利益ともに上方修正し、医療分野としてパンデミック前を上回る過去最高となる見込み
- 2** 科学： 2Q累計実績を踏まえ、かつ市場環境の回復を見込み、売上・営業利益ともに上方修正
- 3** 全社消去： 科学事業の分社化に向けた費用等を新たに織り込み、修正

単位：億円		2022年3月期 8月5日公表見通し	2022年3月期 最新見通し	増減	前回見通し比	為替影響調整後 前回見通し比	FY2021比	2021年3月期 通期実績
内視鏡	売上高	4,380	1 4,530	+150	+3%	+3%	+15%	3,937
	営業利益	1,180	1,270	+90	+8%	+6%	+29%	988
治療機器	売上高	2,700	1 2,760	+60	+2%	+1%	+19%	2,318
	営業利益	520	550	+30	+6%	+4%	+80%	306
科学	売上高	1,090	2 1,140	+50	+5%	+4%	+19%	959
	営業利益	130	155	+25	+19%	+14%	+216%	49
その他	売上高	130	130	0	0	0	+41%	92
	営業利益	▲40	▲25	+15	+15億円	+15億円	▲18億円	▲7
全社・消去	営業利益	▲390	3 ▲510	▲120	▲120億円	▲119億円	+6億円	▲516
連結合計	売上高	8,300	8,560	+260	+3%	+2%	+17%	7,305
	営業利益	1,400	1,440	+40	+3%	0%	+76%	820

(スライド13)

- スライド13ページをご覧ください。
- セグメント別の業績見通しです。
- 内視鏡事業と治療機器事業、科学事業は、累計の実績と市場環境の回復を踏まえ、上方修正しました。
- 特に、内視鏡事業と治療機器事業を合わせた医療分野は、パンデミック前の2020年3月期の実績と比較しても、売上高で14%成長、営業利益で34%成長を見込んでおり、売上、営業利益ともに過去最高となる見通しです。
- 全社消去ですが、科学事業の分社化に向けた費用等を新たに織り込んだことにより、修正となりました。

03 真のグローバル・メドテックカンパニーに向けて

(スライド14)

- 最後に、真のグローバル・メドテックカンパニーに向けた取り組みについてご説明します。

プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2021年11月5日時点)



経営戦略：内視鏡事業における圧倒的ポジションの強化



リユース内視鏡の競争優位性の堅持
継続的な技術革新と販売力



シングルユース内視鏡による
ポートフォリオ拡充
リユース内視鏡を補完する製品
ラインアップの提供

Growth driver now	Just launched / Coming soon	Beyond
消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> EVIS LUCERA ELITE (日本、中国) EVIS EXERA III (米国、欧州) 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (欧州、日本) VISERA ELITE II 2D (米国) VISERA ELITE (中国) VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国) 	消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> EVIS X1 (欧州、日本) 十二指腸内視鏡 TJF-Q190V (米国) 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (欧州) 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> VISERA ELITE II 3D/IR機能 (米国) VISERA ELITE II 2D/3D機能 (中国) 	消化器内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> EVIS X1 (米国、中国) EVIS X1 3D機能 シングルユース十二指腸内視鏡 外科内視鏡 <ul style="list-style-type: none"> VISERA ELITE II IR機能 (中国) 次世代外科内視鏡システム (欧州、日本)

~6%

内視鏡事業
年平均成長率*

*FY2020を起点に、FY2021からFY2023までのCAGR

(スライド15)

- スライド15ページをご覧ください。
- 内視鏡事業のプロダクトパイプラインです。
- 前期から大きな変更はありませんが、欧州、日本、アジア一部地域では「EVIS X1」の売上が徐々に増加しています。
- 「EVIS X1」を発売していない地域においては、早期に確実に販売を開始できるよう、認可取得に向けた活動を行っています。
- また、米国では先端キャップ着脱式スコープへの置き換え対応を行っている十二指腸内視鏡の販売が堅調に推移しています。

プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2021年11月5日時点)



経営戦略：治療機器事業への注力と拡大



消化器科

既存の製品領域において製品ラインアップを拡充し、関連する領域での成長拡大



泌尿器科

前立腺肥大の分野で業界をリードしつつ、製品ラインアップを拡充し、結石処置における競争力を向上



呼吸器科

オリンパス製品とVeran Medical社製品でシナジーを創出するとともに、BLVR*市場も拡大することにより、肺がん領域のポートフォリオを拡大し、リーダーシップを強化

Growth driver now

消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

泌尿器科

- 前立腺肥大症治療用切除デバイス
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州)

呼吸器科***

- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム

Just launched / Coming soon

消化器科

- 5製品 (米国)
- 5製品 (欧州)
- 6製品 (日本)
- 3製品 (中国)

泌尿器科

- 前立腺肥大症低侵襲治療デバイス iTind (米国、欧州)

呼吸器科***

- 電磁ナビゲーションシステム (米国)
- シングルユース気管支鏡 (米国)
- 超音波気管支鏡 (米国)

Beyond

消化器科

- シングルユース胆道鏡

泌尿器科

- シングルユース尿管鏡

呼吸器科***

- 電磁ナビゲーションシステム (欧州)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)
- シングルユース気管支鏡

~8%

治療機器事業
年平均成長率**

*Bronchoscopic Lung Volume Reduction **FY2020を起点に、FY2021からFY2023までのCAGR ***FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。

(スライド16)

- スライド16ページをご覧ください。
- 次に治療機器事業のパイプラインです。
- 消化器科処置具は、さまざまな症例に応じて、各市場で着実に製品ラインナップの拡充を進めています。
- 泌尿器科は、新製品の尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の販売が好調に推移しており、グロースドライバーとなっています。
- 呼吸器科では、新製品を含む気管支鏡や超音波気管支鏡が売上を牽引しています。また、電磁ナビゲーションシステムに付随する製品として、複雑な気管支鏡検査の手順や肺の末梢までの最適な経路ををプランニングし、気管支鏡検査のワークフローを改善するソフトウェアを導入することにより、肺がん領域のポートフォリオ拡大につなげていきます。

FY2022

グローバル・メドテックカンパニーとしての深化



医療ビジネスにおける
収益性の高い成長戦略の深化



Transform Olympusによる
企業体質の更なる改善
および基盤強化



今後の成長を牽引する
製品開発への
着実な投資継続



サステナブルな社会に資する
ESGへの取り組み

- ☑ 科学事業の分社化について引き続き検討
- ☑ Global Business Servicesの推進
- ☑ オリンパスシステムズのアクセンチュアへの株式譲渡が完了
- ☑ コーポレート・ベンチャー・キャピタル「Olympus Innovation Ventures」の設立

(スライド17)

- スライド17ページをご覧ください。
- 今期は「グローバル・メドテックカンパニーとしての深化」をテーマに掲げ、昨年に行った企業変革の継続と定着に取り組んでいます。
- 第2四半期の進捗をご説明いたします。
- まず、科学事業の分社化です。本日適時開示をしましたが、科学事業の分社化に関して、その後の事業譲渡等を含むあらゆる選択肢を視野に入れたうえで引き続き検討しております。
- 続いて、GBSです。当社独自の業務や守秘性の高い業務等は中国、ポーランド、米国のキャプティブ・シェアードサービスセンターに、定型的な業務や標準化された業務については中国、インド、マレーシアなど外部委託によるビジネス・プロセス・アウトソーシング（BPO）に移行を進めています。欧州では既にシェアードサービスセンターへの移管がかなり進んでいますが、今期は9月までに、日本、中国、アジア一部地域において、ファイナンスおよび購買の一部業務の引継ぎが完了し、日本から大連へのBPOがスタートしました。自社キャプティブ・シェアードサービスセンターについても、中国の大連に先日「Olympus Asia Pacific Business Management Services (Dalian) Co., Ltd」を設立し、12月の正式稼働に向けて、準備を進めています。
- 次に、オリンパスシステムズ株式会社のアクセンチュア株式会社への譲渡です。6月1日に署名した合意に基づき、8月末に株式譲渡が完了いたしました。また、この譲渡の契約の一環として、基幹業務システムのアプリケーション開発や保守、運用を含むアウトソーシング契約を締結しております。本件はグローバルIT基盤の構築に向けた組織力の強化と長期的なITコストの最適化のための施策のひとつです。
- 最後に、コーポレート・ベンチャー・キャピタルの設立です。差別化された技術を持つアーリーステージの企業をグローバルに探索し、投資につなげていくため、先日設立したコーポレート・ベンチャー・キャピタル「Olympus Innovation Ventures」に対し、今後5年間で総額5,000万ドルの投資を予定しております。

Upcoming Event

OLYMPUS

INVESTOR DAY 2021

- 日程: 2021年12月7日
登壇者: 竹内 康雄、ナチョ・アビア
Q&A: CEO, COO, CTO, CFO, CAO
概要:
 - Transform Olympus発表から、これまでの振り返り
 - 経営戦略に基づいた医療ビジネスの成長戦略の深化

(スライド18)

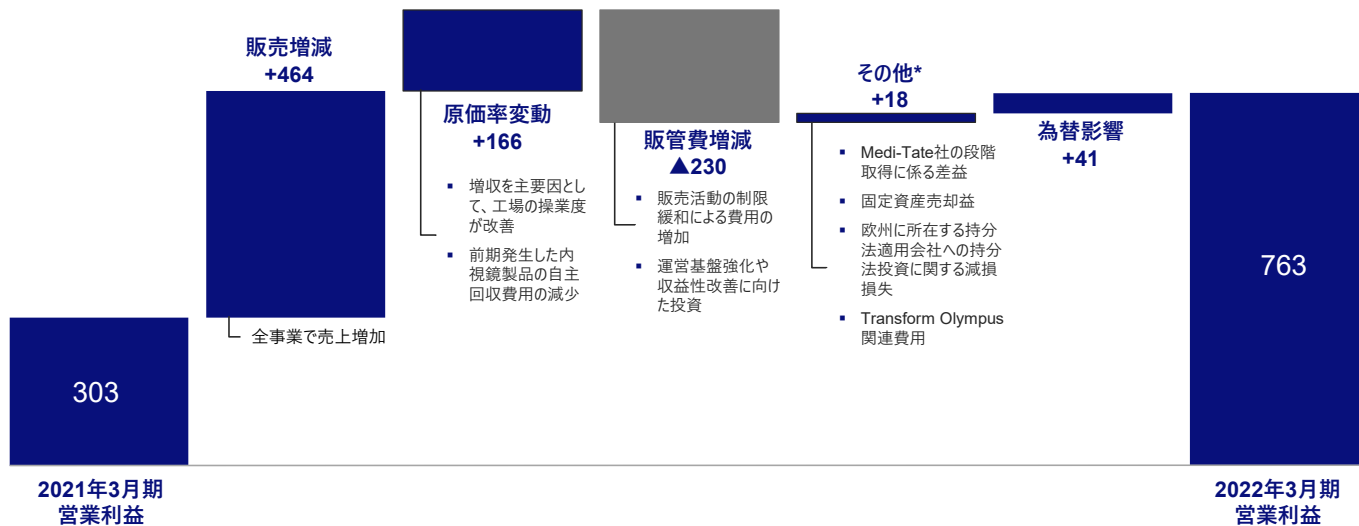
- スライド18ページをご覧ください。
- 12月に開催予定のInvestor Day 2021のご案内です。
- 2019年にTransform Olympus、経営戦略を発表してからこれまでの振り返り、現在の経営戦略を深化させた医療ビジネスの今後の方向性等について、ご説明する予定です。
- 私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

OLYMPUS

参考資料

2022年3月期 第2四半期実績 ①連結営業利益増減要因

第2四半期累計実績（4-9月）



(単位：億円) *その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています。

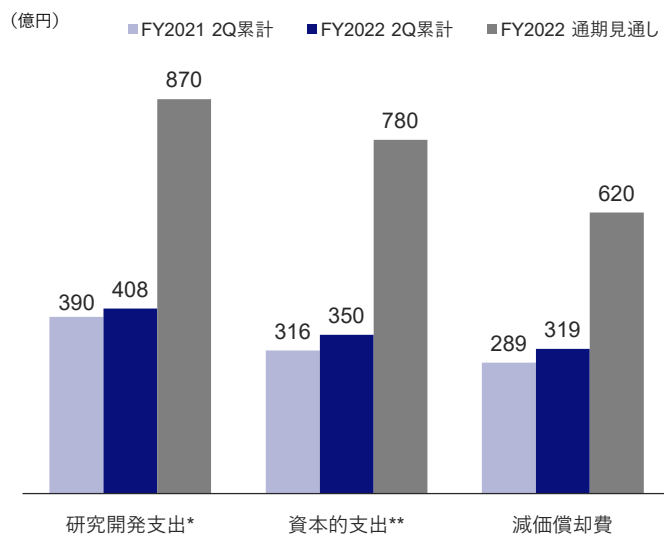
2022年3月期 第2四半期実績 セグメント別概況

		2Q累計実績 (4-9月)				2Q実績 (7-9月)			
(単位：億円)		2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	為替影響調整後	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	1,713	2,206	+29%	+22%	970	1,206	+24%	+18%
	営業利益	423	616	+46%	+39%	299	390	+30%	+22%
治療機器	売上高	1,016	1,331	+31%	+24%	587	695	+18%	+13%
	営業利益	99	303	+205%	+194%	63	162	+159%	+144%
科学	売上高	403	532	+32%	+25%	226	283	+26%	+20%
	営業利益	2	65	2808%	2629%	18	46	+152%	+129%
その他	売上高	32	62	+93%	+88%	16	32	+96%	+93%
	営業損益	▲10	▲11	▲2億円	▲1億円	▲4	▲6	▲1億円	▲1億円
全社・消去	営業損益	▲212	▲210	+2億円	+3億円	▲110	▲106	+4億円	+5億円
連結合計	売上高	3,165	4,131	+31%	+24%	1,799	2,215	+23%	+18%
	営業利益	303	763	+152%	+138%	266	486	+83%	+69%

*FY2022より、内視鏡事業の消化器内視鏡分野に分類していた気管支鏡につきまして、治療機器事業の呼吸器科に移管しています。FY2021の実績も同様の組替えを行っています。

投資等

第2四半期累計実績（4-9月）および通期見通し



(単位：億円)

	FY2021	FY2022
研究開発支出* (a)	390	408
開発費資産化 (b)	74	82
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	316	326

(単位：億円)

	FY2021	FY2022
償却費	39	45
	2021年6月末	2021年9月末
開発資産残高	580	599

*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。／ **資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。
また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用権資産が含まれています。
(FY2021 2Q累計：84億円、FY2022 2Q累計：61億円、FY2022 通期見通し：90億円)